

---

---

平成26年度  
事業報告書  
【総括版】

---

---

社会福祉法人 東北福祉会

## 1. 本部

総括	<p>1. 法人の運営・経営における全体調整を行うとともに、安定経営に向けた取り組み等を整理するために経営会議を新設した。</p> <p>2. 施設長会議、総務部課長会議、事業系部長会議を通じ法人内の連携強化を図った。</p> <p>3. 「新・10か年計画」および「経営戦略中期方針」の実践において、拡大ワーキングチーム、ワーキングチームが中心となり実行計画に基づき事業を実施した。</p> <p>4. 宮城県社会福祉協議会と協働により、宮城県における災害時の福祉関係団体による広域連携体制づくりを行った。</p>
実施項目	<p>1. 新・基本10か年計画に基づく計画的な事業の実施と、諸規程等の見直し・新設による法人機能の強化を図った。</p> <p>2. 新任研修等において理念・倫理行動指針等の浸透を図り、専門職者教育の充実と職場内・外における研修の機会を確保し質的・量的の充実を図った。</p> <p>3. インターネット求人活用の活用と年間を通じた採用試験計画に基づいた人財確保の実施と地域の潜在的有資格者や福祉分野に興味のある方を対象とした職場体験事業による人財確保を実施した。</p>
主な内容	<p>1. ①理事会開催（3回）②評議員会開催（3回）③監事監査（2回）④経営会議（10回）⑤施設長会議（15回）⑥総務部課長会議（12回）⑦事業系部長会議（12回）⑧拡大ワーキングチーム会議（12回）⑨ワーキングチーム会議（7回）</p> <p>2. 諸規程の整備①就業規則一部改正（5/29・12/18・3/26）②准職員及び契約職員規程全面改正（5/29・3/26）③育児休業及び育児短時間勤務等に関する規則一部改正（12/18・3/26）④介護休業及び介護短時間勤務等に関する規則一部改正（12/18・3/26）⑤預り金規程新設（12/18）⑥短時間背栄記職員のための就業規則新設（3/26）⑦自家用車通勤規程新設（3/26）⑧自家用車業務使用規程全面改正（3/26）⑨職員旅費規程一部改正（3/26）</p> <p>3. ①ジェネリックソーシャルワーク学習会の開催（全体：2回・各事業所：7回）②ライフプラン学習会の開催（知る編：5回・考える編：5回）③法人内グループ交換研修（4回）④地域防災拠点整備に向けた各事業所におけるBCPの作成と合同防災訓練の実施</p> <p>4. ①災害時広域連携ネットワーク検討会（2回）②災害福祉広域支援研修会開催（2/26～27）</p>

## 2. せんだんの社

総括	<p>1. 法人の理念を達成するべく、さらなる人財育成を目指して、領域別内部研修実施に加え、外部講師による計画的・効果的な研修を実施し、サービスおよび労働安全衛生等の質の向上を図った。また、「職員の資質の向上の支援に関する計画」の策定等、発展的な人財育成体制の構築が図れた。</p> <p>2. 地域支援のさらなる具現化に向け、地域災害支援ネットワークへの参画や子育て家庭訪問型ボランティア事業活動等により、地域の多様な資源と共に生活福祉の向上に取り組むことができた。</p>
実施項目	<p>1. OJT、OFF-JTの強化とPDCAサイクルを効果的に活用したサービスの追求に取り組み、連続的、発展的な人財育成の構築、チームマネジメントの展開を行った。</p> <p>2. 「福祉の職場体験事業」による体験希望者の受入を行い、新たなボランティアや介護人財の確保につながると共に、地域に潜在する福祉・介護人財の参入促進方策の検証も行った。</p> <p>3. 訪問系サービスの拡充を模索すると共に、滞在系サービスの効率化を図った。また、教育機関や民間企業との協働による研究にも取り組み、サービスの質の向上および人財育成を図った。</p> <p>4. 地域における災害支援ネットワーク構築の強化と相互の協働関係を促進した。また、地域住民および関係機関との有機的な連携のもと、子育て家庭訪問型ボランティア事業の展開を図った。</p>
主な内容	<p>1. 職場外・内研修の効果的活用、サービスの質および労働安全衛生等の向上等、PDCAサイクルの展開を留意し、課題分析から実践・評価後の再計画化などによる積み重ねを行った。</p> <p>2. 「福祉の職場体験事業」による受入について、オーダーメイドの活動をコーディネートすることで、福祉サービス等に対する理解促進を図った。また、今後における人財発掘および人財確保、参入促進方策の策定につなげることとした。</p> <p>3. 訪問系サービス拡充を検討すると共に、滞在系サービスについては、中重度者や低所得者への支援に注力すると共に医療機関等との連携強化も図り、事業所としての役割を發揮できるよう努めた。</p> <p>4. 地域における災害支援ネットワークへの参画を図り、住民と共に福祉避難所として果たすことのできる機能の検討を行った。加えて、「子育て」を「孤育て」にしないためにも、支援のすき間で孤立しがちな親子のもとへ支援を届ける子育て家庭訪問型ボランティア事業の創設に取り組んだ。</p>

### 3. せんだんの杜ものう

総括	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者・入居者が日々の生活に対し満足感が得られるよう、多職種連携による支援とニーズに即したサービス内容の充実に向けた取組みを行った。</li> <li>2. 日々のOJT、OFF-JTを中心とした人財育成に努め、個々の能力向上とチーム力向上に努めた。</li> <li>3. 地域住民、各関係機関・団体等との会議等を通して関係づくりの強化を行い、地域および被災者ニーズに即したサービス提供に結びつけた。</li> <li>4. 職員全体へ経営状況を周知することにより、個々の経営意識向上に努めた。</li> </ol>
実施項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提供するサービスの振返りと見直しの機会を定期的に設け、新たな支援の方策の検討と既存のサービス内容の良質化に繋がった。</li> <li>2. 目標管理制度を有効活用し、個々の目的意識を高めると共に、内部研修の計画的開催・外部研修への派遣による自己啓発支援を行い、効果的な人財育成に繋がった。</li> <li>3. 運営委員会、地域ケア会議等の開催を通じて連携を強化すると共に、地域および住民ニーズを的確に把握し、総合的な支援体制の構築に繋がった。</li> <li>4. 事業所全体で毎月の収支管理と分析を行い、増収と経費削減に向けた方策を検討した。</li> </ol>
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者本人だけでなく家族介護者、地域住民からの意見を基に、各部署ならびに事業所全体で共有・検討する機会を定期的に設け、迅速かつ丁寧な対応を基本としてサービスの質向上に努めた。</li> <li>2. 職員全員が、支援担当者と共に自己目標の達成、自己実現のための取組みに努めた。また、内部研修・外部研修へ積極的な参加により学びを深め、学び得た内容をチームに伝達、実践することでチーム力向上と基礎姿勢の醸成に努めた。</li> <li>3. 地域住民ならびに保健・医療・福祉の関係機関・団体との協働により、迅速かつ柔軟な支援を実践し、「安全・安心」な地域づくりに努めた。同様に被災者への支援の継続を関係機関と協働して行った。</li> <li>4. 定例の会議等において、収支および稼働状況について把握と分析から、効果的なコスト・設備管理、増収に向けた方策の検討を行った。事業所全体での取組みにより、職員個々の経営ならびにコスト削減に関する意識が高まるという効果につながった。</li> </ol>

### 4. せんだんの里

総括	<p>平成26年度せんだんの里の経営及び運営については、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営意識を持ち、一人ひとりの望む生活支援とサービスを提供する</li> <li>2. 専門職として、専門的視点を持って支援する</li> <li>3. 社会福祉法人の役割として、地域を支援する</li> </ol> <p>の3項目を目標として実施した結果、利用率が向上し前年度を上回る収入を得る事が出来た。また、職員の資格取得や内部研修等、積極的な参加姿勢が多くみられ、個々のスキルアップも図れた。地域支援として、多数の地域ボランティアの受け入れや交流を図り、介護料理教室等を定期的に開催し、よりよい関係作りが行えた。</p>
実施項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当者間連携や他機関連携を強化し、サービス事業の利用率の向上に努め、安心・安全な施設経営基盤の見直しと継続を図った。</li> <li>2. 各サービス事業における利用者の生活支援（食事、排泄、入浴）においてサービスの質の改善を図り、サービス利用満足度（顧客満足度）を高めることができた。</li> <li>3. 職員個々の年間活動（課題達成）目標を設定し、各種研修等への参加などによりサービス従事者の目的意識の高揚を図った。</li> <li>4. 交流や事業所運営に関する意見交換の機会を積極的に設け、福祉・介護に関する住民意識及びニーズを的確に把握し、隣接コミュニティとの連携を図った。</li> </ol>
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特養では、入居判定会のこまめな開催により入退所の迅速化、介護を中心とした各専門職の連携課題対処の取組みを充実した結果、平均稼働率 95.4%（143.1名）と前年度を上回ることができた。ショートステイでは、前年度に続き長期入居の利用増に取り組んだ結果、平均稼働率 83.8%（41.8名）となり前年度平均よりも0.8%増加した。また、3丁目デイサービスの稼働率、居宅介護支援件数も前年度を上回る結果となった。</li> <li>2. 相談窓口として、受けた相談、必要とされているサービスの提供（紹介）を総合サービス事業所の機能を活かし、迅速に対応することが出来た。</li> <li>3. 定期的な内部研修の開催や外部研修への参加、資格取得勉強会の開催等、各種研修への参加機会を多く設定することができ、参加することで個人だけではなく、ユニット全体又は部署で情報共有しスキルアップへつながった。</li> <li>4. 介護料理教室やサロンを開催し情報発信すると共に、地域行事や防災会議等への参加をとおり地域社会への貢献活動と交流活動を積極的に図った。</li> </ol>

## 5. せんだんの館

総括	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長期的な安定経営を常に念頭に置き、その具現化のため、月間・年間の収支把握と分析を行いながら増収を図った。</li> <li>2. 「利用者主体」の基本方針に基づく人財育成とサービスの質向上に取り組んだ。</li> <li>3. 安心・安全なサービス提供を実施するため、危機管理を徹底した。</li> <li>4. 地域住民のニーズに応じた事業所機能の強化と、新たなサービスの開発・提供を行った。</li> </ol>
実施項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期的な稼働率分析と、稼働率向上のための取組を行う。</li> <li>2. 目標管理制度に基づく内部・外部研修機会の確保と理念教育の充実を図る。</li> <li>3. 事故の防止策及び再発防止策の徹底と利用者・家族とのパートナーシップの形成を図る。</li> <li>4. 地域ワーキングの活動を中心とした公益的な事業の実施と、防災協定に基づく地域防災への取組みの充実。</li> </ol>
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 月毎の会議等により、各サービス部門の稼働率分析を定期的に行い、新規利用者の獲得や、特別養護老人ホームの空床利用などに積極的に取り組み、新たなニーズへの対応を行うことが出来た。</li> <li>2. 目標管理制度に基づき、計画的な内部研修の開催による理念教育を意識的に行うと共に、外部研修への参加機会を確保した。また、利用者個々の生活支援について、ニーズに基づくサービス提供を行えるよう、多職種協働によるカンファレンスを実施した。</li> <li>3. サービス利用に伴い、本人のアセスメントと合わせ、家族アセスメントも意識的に行い、より具体的なサービス内容の説明と共有を図った。また、利用者・家族からの質問やサービスへの要望に対して、迅速に対応することを心がけた。</li> <li>4. 地域ワーキングの活動を中心に、通所型介護予防の実施や広報誌の発行、男性料理教室の開催、町内会への講師派遣など、公益的な活動を意識的に行った。また、近隣の本沢町内会との防災への取組みについて、「防災協定」を締結し、それに基づく合同防災訓練を計画的に実施することができた。水の森町内会とも災害時の連携体制整備の取組みを進めている。</li> </ol>

## 6. 認知症介護研究・研修仙台センター

総括	<p>東北福祉大学を母体とする関連研究施設及び関連福祉施設等との有機的連携を深めながら、1. 研究事業、2. 研修事業、3. 運営事業費補助金による事業 を実施した。</p>
実施項目と主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究事業             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老人保健事業推進費等補助金による研究事業の実施                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症介護実践研修、指導者養成研修のあり方およびその育成に関する調査研究事業</li> <li>(2) 高齢者虐待の要因分析と地方自治体の施策促進に関する調査研究事業</li> </ol> </li> <li>2) 運営事業費における研究事業の実施                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 加齢と健康に関する縦断研究—心身の健康を維持するための要因に関する分析研究—</li> <li>(2) 認知症介護技法に関する組織内教育(OJT)手法の開発</li> <li>(3) 在宅介護の介護者支援ならびに高齢者虐待未然防止に関する研究</li> </ol> </li> <li>3) 文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業における研究事業の実施                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 離島地域における災害支援に向けた地域介入モデルに関する研究</li> </ol> </li> <li>4) 倫理審査委員会による研究事業の倫理的観点からの検討</li> <li>5) 認知症介護セミナー、3センター研究成果報告会での研究成果の発表</li> <li>6) DCnet への研修成果の掲載、認知症啓発事業等による広報活動</li> </ol> </li> <li>2. 研修事業             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症介護指導者養成研修の実施                 <p>第1回：6月9日～8月8日 修了者14名      第2回：9月8日～11月7日 修了者15名                  第3回：12月1日～2月6日 修了者15名</p> </li> <li>2) フォローアップ研修の実施                 <p>第1回：8月25日～8月29日 修了者14名      第2回：11月17日～11月21日 修了者11名</p> </li> </ol> </li> <li>3. 運営事業補助金による事業             <p>運営委員会・外部評価委員会の開催による管理・運営の充実、全国運営協議会の開催による3センターの共通事項の検討、一般市民等を対象とした認知症介護セミナーの実施等に取り組んだ。</p> </li> </ol>

## 7. 各事業の実績と目標の比較

### (1) せんだんの杜

No	サービス事業所名	定員(人)	H26 年度実績(%)	H26 年度目標(%)	H25 年度実績(%)	H24 年度実績(%)
1	特別養護老人ホームリベラ荘 (従来型)	32	97.6	97.5	98.0	93.7
2	特別養護老人ホームリベラ荘 (ユニット型)	18	97.5	97.5		
2	ケアハウスフェリコ館	30	96.9	97.0	94.9	96.0
3	せんだんの杜短期入所生活介護事業所	20	94.0	97.0	94.1	98.4
4	せんだんの杜訪問介護事業所 (訪問介護等)	—	646.0 (時間)	764.0 (時間)	727.2 (時間)	781.0 (時間)
5	せんだんの杜国見ヶ丘通所介護事業所	10	64.1	75.0	62.0	67.3
6	せんだんの杜中山通所介護事業所 (一般型)	10	59.7	70.0	64.9	67.6
7	せんだんの杜川平通所介護事業所	10	(廃止)	(廃止)	(休止)	(休止)
8	せんだんの杜国見通所介護事業所	10	45.3	60.5	52.0	57.3
9	せんだんの杜居宅介護支援事業所	—	79.8 (件)	76.8 (件)	71.5 (件)	74.0 (件)
10	国見ヶ丘地域包括支援センター	—	238.1 (件)	255.0 (件)	458.2 (件)	225.0 (件)
11	杜の子ハウス (放課後等デイサービス)	10	88.3	98.0	89.8	74.6
12	遊杜家 (放課後等デイサービス)	10	115.7	99.0	100.5	74.6
13	国見ヶ丘せんだんの杜保育園	99	106.0	106.0	106.0	105.0
14	国見ヶ丘せんだんの杜保育園分園	28	107.0	107.0	107.0	106.7
15	せんだんの杜地域子育て支援センター	—	258.3 (件)	275.0 (件)	258.3 (件)	349.1 (件)
16	せんだんの家 (自立援助ホーム)	11	56.3	70.0	50.0	67.2
備考	<p>No. 1 「特別養護老人ホームリベラ荘」の施設類型変更について 介護保険上は、平成25年度まで一部ユニット型、平成26年度からユニット型と従来型の別施設。</p> <p>No. 5 「国見ヶ丘通所介護事業所」の定員変更について 平成25年7月まで20名、平成25年8月から10名。</p> <p>No. 7 「川平通所介護事業所」は、平成26年3月31日付け廃止。</p> <p>No. 16 「せんだんの家」の暫定定員について 平成24年度は14名、平成25年度は12名、平成26年度は11名。</p>					

## (2)せんだんの杜ものう

No	サービス事業所名	定員(人)	H26 年度実績(%)	H26 年度目標(%)	H25 年度実績(%)	H24 年度実績(%)
1	特別養護老人ホームファミリオ	50	97.5	99.0	98.9	95.2
2	ものう短期入所生活介護事業	15	104.3	102.0	104.3	100.7
3	地域福祉センター通所介護事業	15	69.6	86.6	86.0	74.5
4	ものう通所介護事業	10	66.1	75.0	71.0	78.2
5	ケアハウスフェリカ	15	97.3	99.0	98.6	99.1
6	ものう訪問介護事業	—	596.0 (時間)	660 (時間)	652.2 (時間)	652.9 (時間)
7	ものう居宅介護支援事業	—	115.5 (件)	120 (件)	111.9 (件)	103.1 (件)
8	石巻市ものう地域包括支援センター	—	106.8 (件)	105 (件)	100.2 (件)	101.8 (件)
9	なかつやま認知症対応型共同生活介護事業	9	98.8	99.0	98.3	96.0
10	なかつやま第一通所介護事業	10	58.0	70.0	58.8	59.2
11	なかつやま短期入所生活介護事業	2	70.8	67.0	68.3	55.0
12	うした認知症対応型共同生活介護事業	9	98.5	99.0	99.9	96.3
13	うした通所介護事業	10	73.5	80.0	71.0	71.7
14	うした短期入所生活介護事業	1	—	—	25.0	29.0
15	石巻市桃生地区第一放課後児童クラブ	20	17.0 (人)	17 (人)	16.2 (人)	9.6 (人)
16	石巻市桃生地区第二放課後児童クラブ	37	25.2 (人)	20 (人)	16.8 (人)	13.5 (人)
備考	・うした短期入所生活介護事業は、平成25年11月より休止、平成26年6月1日廃止。					

## (3) せんだんの里

No	サービス事業所名	定員(人)	H26 年度実績(%)	H26 年度目標(%)	H25 年度実績(%)	H24 年度実績(%)	
1	せんだんの里特別養護老人ホーム	150	95.4	95.0	94.3	93.3	
2	せんだんの里ショートステイ	50	83.6	82.0	82.8	75.4	
3	せんだんの里デイサービス	30(日曜15)	月～土 78.4 日 57.7	月～土 86.6 日 70.0	月～土 80.7 日 56.2	月～土 70.7 日 70.0	
4	せんだんの里国見ヶ丘3丁目デイサービス	10	66.2	70.0	62.6	53.0	
5	せんだんの里グループホーム	24	98.2	100.0	98.3	98.8	
6	せんだんの里国見ヶ丘3丁目グループホーム	8	99.1	100.0	98.4	100.0	
7	せんだんの里居宅介護支援事業所	—	133.0(件)	125.0(件)	127.6(件)	111.9(件)	
備考							

## (4) せんだんの館

No	サービス事業所名	定員(人)	H26 年度実績(%)	H26 年度目標(%)	H25 年度実績(%)	H24 年度実績(%)	
1	特別養護老人ホームせんだんの館	100	96.5	98.0	97.5	95.9	
2	せんだんの館ショートステイ	20	97.5	90.0	89.6	88.7	
3	せんだんの館デイサービス	35	78.7	91.5	91.0	88.6	
備考							

## (5) 認知症介護研究・研修仙台センター

No	研 修 名	定員(人)	H26 年度実績(人)	H26 年度計画(人)	H25 年度実績(人)	H24 年度実績(人)	
1	第1回認知症介護指導者養成研修	20	14	16	16	20	
	第2回認知症介護指導者養成研修	20	15	16	15	17	
	第3回認知症介護指導者養成研修	20	15	16	12	—	
2	第1回フォローアップ研修	20	14	13	13	13	
	第2回フォローアップ研修	20	11	13	12	12	
備考							